



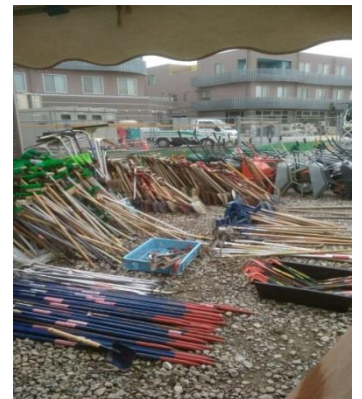
尼崎医療生協 7月豪雨災害支援ニュース

第6号 2018年9月3日

尼崎医療生活協同組合

9月1日(土)、今回の支援は2東病棟から3名、医事課から2名、ドライバー1名の計6名での参加となりました。病院を6時に出発、2時間半かけて倉敷市災害ボランティアセンター(中国職業能力開発大学校内)に到着し、順次ボランティア登録を済ませました。小雨が降る悪天候だったため、到着時にはボランティア活動自体を行うか否か決まっていなかった状況でしたが、次第に天候も回復に向かう様子であり決行となりました。私達5人は菌・川辺地区のサテライトへ向かうこととなり、ボランティアセンターから大型バスで移動、途中で小田川を渡るのですが渡った瞬間景色は一変します。家々の壁は泥で汚れ、窓はなく、ビニールハウスの骨組みの上にボートが乗っている惨状を目の当たりにしました。菌・川辺地区のサテライトに到着すると、依頼者宅との連絡調整を待ち行き先が決定。依頼内容に応じて必要な道具を準備し送迎車で移動します。(※この送迎もボランティアによるものです)

依頼者のCさん宅は、築3年目で被災し、洪水は2階の床上10cmまで上がってきたそうです。そのため、家の中は基礎部分だけを残し、床板からすべて張り替え作業を行っているとのこと、大工さんが作業されていました。私達への作業依頼は、家の周囲の砂利をすべて撤去することでした。氾濫した川の水を含んでいるため不衛生で泥の臭いもあり、全て撤去して消毒剤を撒いたあと新しい砂利を敷く予定だそうです。20分おきに休憩をはさみつつ作業は順調に進み、送迎車が迎えにくる時間までにすべての作業を完了することができました。真備町のボランティアはとても組織的・効率的に行われており、またボランティアに必要な物資は十分な数が用意されていたのでとても助かりました。災害発生から約2ヶ月が経過しましたが、まだまだ支援が必要な状況です。最後に今回の水害で亡くなられた方々に哀悼の意を表します。



(左上) まび記念病院 きれいな外観ですが1階部分は水没し、現在仮設診療を行っているそうです。

災害当時、避難されている方々が屋上からへりに手を振る光景が放送されていました。

(中央) 菌・川辺地区のサテライト 活動から戻ってきたボランティアさんに、かき氷やたい焼きを振る舞われていました。この方々も西宮、宝塚から来られたそうです。

(右上) ボランティアに必要な道具 ブラシ、シャベル、バール、手押し車、雑巾、土嚢袋など、十分な量の道具が揃っています。

※ボランティア中の撮影はできる限り控えるよう事前に説明されていますので、活動中の写真はありません。現在の真備町の様子はネット等でご覧ください

8月30日～31日 広島市安芸区ボランティアセンター救護班へ

本田診療所 川井師長が支援参加

8/14 現在支援募金額 489,140円

内、10万円を全日本民医連通じて義捐金としてお送りしました